

# 第1 長崎市の概要

# 第1 長 崎 市 の 概 要

長崎市は、九州の西端長崎県の南部に位置し、天然の良港と周辺の海岸線など景勝に恵まれ、歴史と文化を伝統に発展し続けてきたが、長崎市のあゆみと市域の変遷は次のとおりである。

## 1 長崎市のあゆみ

長崎の名が歴史上に現れるようになったのは、元亀元年（1570年）ポルトガルの一宣教師によって、ここが天然の良港であることが発見されてからとされている。そして翌元亀2年（1571年）長崎港は、領主大村純忠によってポルトガルとの交易港となり、以後年を追って多くのオランダ、中国の船があいついで入港するようになり、長崎は繁栄を続けてきた。

長崎にはキリスト教とともに、当時ルネッサンス期を迎えたヨーロッパの各種文物が流入し、これらは南蛮文化として長崎はもとより鎖国時代の我が国に大きな影響を及ぼしている。

その後、明治政府の誕生により文明開化の風潮は我が国の全土を覆い、明治政府の重鎮俊英こぞって長崎を訪れたという歴史的事実は、長崎史に特筆すべき一ページを記することとなる。

本市は明治22年市制を施行し、以来大正、昭和にわたり造船工業を中心とした産業都市として発展し続けてきたが、昭和20年8月、原子爆弾の投下によって7万余の尊い生命が奪われ市街地は焦土と化した。

しかし、昭和24年、長崎国際文化都市建設法の制定とともに市民のたゆみない努力によって、もはや戦災のあとはほとんど見られなくなるほど復興した。昭和57年には未曾有の大水害にも見舞われたものの、海外文化の影響を受けた本市独特の歴史的文化遺産と美しい自然に恵まれた観光都市として国内外において大きく脚光を浴びるに至った。

第五次総合計画（令和4年度～令和12年度）では、将来の都市像として「個性輝く世界都市 希望あふれる人間都市」を掲げ、都市像の実現のために「つながりと創造で新しい長崎へ」を基本姿勢にしてまちづくりを進めている。

## 2 長崎市の地勢

地勢は、南方から北方へ向って約4 km にわたって湾入した天然の良港に恵まれてはいるが、四囲を400～500m の山岳によって囲まれ、丘陵地帯の限られた部分が市街地となり丘陵と山が海岸線に迫っているため、一般に地形急峻で平坦に乏しく、家屋は傾斜面を山頂に向って連たんし、特異な市街地を形成している。

そして、このことは原子爆弾投下による爆風、火災及び放射線の伝播に複雑な影響を及ぼし、長崎市の原爆災害の態様を決定する要因の一つとなっている。

### 3 市域の変遷

拡張の経過	拡張年月日	面積	戸数 世帯数	人口
市制施行	明治22年4月1日	(推) 7.00 km <sup>2</sup>	9,230 戸	54,502 人
第1次市域拡張	明治31年10月1日	(推) 16.00	16,559	113,307
第2次市域拡張	大正9年10月1日	41.10	33,240	232,912
第3次市域拡張	昭和13年4月1日	90.54	48,270	268,945
第4次市域拡張	昭和25年4月1日	90.60	57,081	247,248
第5次市域拡張	昭和30年1月1日	114.23	64,231 世帯	292,765
第6次市域拡張	昭和30年2月1日	121.32	64,988	296,323
第7次市域拡張	昭和37年1月1日	165.41	89,692	372,027
第8次市域拡張	昭和38年4月20日	206.62	96,743	392,072
第9次市域拡張	昭和48年3月31日	238.12	124,968	431,181
第10次市域拡張	昭和48年4月1日	239.03	125,492	433,196
第11次市域拡張	平成17年1月4日	338.72	182,519	447,103
第12次市域拡張	平成18年1月4日	406.35	184,119	454,739
※1	平成26年10月1日	405.81	191,625	433,514
※2	令和元年10月1日	405.86	189,419	429,508
※3	令和5年4月1日	405.69	185,952	395,591
現況	令和7年4月1日	405.69	185,695	385,105

〈拡張区域・世帯数・人口〉(市制施行前) 長崎区 6,846戸 43,351人 上長崎村、下長崎村の各一部 1,477戸 7,299人 (第1次市域拡張) 下長崎村の全部並びに戸町村、淵村、浦上山里村及び上長崎村の各一部 39,333人 (第2次市域拡張) 上長崎村、浦上山里村 (推) 24.00km<sup>2</sup> 3,226戸 16,830人 (第3次市域拡張) 小櫛村 2.05km<sup>2</sup> 640戸 3,741人 土井首村 13.93km<sup>2</sup> 657戸 3,880人 小ヶ倉村 9.78km<sup>2</sup> 425戸 2,289人 西浦上村 23.68km<sup>2</sup> 877戸 4,665人 (第4次市域拡張) 福田村の一部 0.06km<sup>2</sup> 25戸 106人 (第5次市域拡張) 深堀村 2.18km<sup>2</sup> 1,222世帯 6,097人 福田村 21.47km<sup>2</sup> 992世帯 5,431人 (第6次市域拡張) 日見村 7.09km<sup>2</sup> 666世帯 3,462人 (第7次市域拡張) 茂木町 34.30km<sup>2</sup> 2,661世帯 14,272人 式見村 9.79km<sup>2</sup> 1,404世帯 8,048人 (第8次市域拡張) 東長崎町 41.21km<sup>2</sup> 2,919戸 15,490人 (第9次市域拡張) 三重村 30.02km<sup>2</sup> 1,198世帯 5,190人 (第10次市域拡張) 時津町の一部 0.91km<sup>2</sup> 524世帯 2,015人 (第11次市域拡張) 香焼町4.51km<sup>2</sup> 1,674世帯 4,200人 高島町 1.34km<sup>2</sup> 432世帯 778人 伊王島町 2.26km<sup>2</sup> 460世帯 879人 野母崎町 20.93km<sup>2</sup> 2,715世帯 7,420人 三和町 21.74km<sup>2</sup> 4,213世帯 11,925人 外海町 46.62km<sup>2</sup> 2,459世帯5,401人 (第12次市域拡張) 琴海町67.63km<sup>2</sup> 4,146世帯 12,500人 (※1) 平成26年10月1日の面積減は、国土地理院による「全国都道府県市区町村面積調」の算出方法の変更によるもの。(※2) 公有水面埋立等による面積増加によるもの。(※3) 令和5年4月1日の面積減は、国土地理院による「電子国土基本図」の変更に伴う海岸線の形状変化等によるもの。

資料／市情報政策推進部情報統計課